

令和6年度学校運営連絡協議会実施報告書

I 組織

- 1 都立小平南高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- 2 事務局の構成
副校長、経営企画室長、総務保健部員1名 計3名
- 3 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（総務保健部主任）、主任教諭（教務部主任）、
主幹教諭（生活指導部主任兼任）、主任教諭（進路指導部主任兼任）主幹教諭(2学年主任兼任)
計8名
- 4 協議委員の構成
PTA会長、近隣小学校長、近隣中学校長、大学特任准教授、近隣青少対委員、地域体育施設指
定管理者 計6名

II 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- 1 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年6月14日（金）協議委員5名 内部委員8名
 - ・協議委員・評価委員の委嘱、委員紹介
 - ・学校経営計画、本校の現状と課題
 - ・今年度の学校評価について
 - ・意見交換、事務連絡
 - 第2回 令和6年10月24日（木）協議委員4名 内部委員8名
 - ・近況の教育活動報告
 - ・学校評価アンケートに関する内容検討、協議
 - ・意見交換、事務連絡
 - 第3回 令和7年2月16日（金）協議委員2名 内部委員8名
 - ・近況の教育活動報告
 - ・アンケート結果から明確になった本校の課題と改善策
 - ・意見交換、事務連絡
- 2 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年6月14日（金）協議委員3名、内部委員8名
 - ・学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析と考察
 - ・今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第2回 令和7年2月16日（金）協議委員2名、内部委員8名
 - ・アンケート結果の分析・考察、課題の整理
 - ・評価報告書（原案）の検討
 - ・アンケート結果から明確になった本校の課題と改善策の取組・進捗状況

III 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- 1 調査の対象
本校生徒（828名）、本校生徒保護者（828名）、地域（20名）、本校教職員（50名）
- 2 アンケートの実施時期
令和6年11月5日（火）から令和6年11月29日（金）まで

3 アンケート回収状況

		生徒				保護者				教職員
		全体	1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	
令和6年度	対象者(人)	828	280	274	274	828	280	274	274	50
	回答者(人)	551	242	190	119	246	—	—	—	36
	回収率(%)	66.5	86.4	69.3	43.4	29.7	—	—	—	72
令和5年度	対象者(人)	827	280	275	272	827	280	275	272	42
	回答者(人)	759	265	248	246	443	175	147	121	42
	回収率(%)	91.8	94.6	90.2	90.4	53.5	62.5	53.4	44.4	100
令和4年度	対象者(人)	835	277	278	280	835	277	278	280	43
	回答者(人)	776	254	258	264	332	145	99	88	43
	回収率(%)	92.9	92.8	92.8	94.3	39.8	52.3	35.6	31.4	100

※今年度、保護者に学年回答を求めなかった。

4 主な評価項目 学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、健康安全、施設設備、その他

	学校運営	学習指導	生活指導	進路指導	特別活動	健康安全	施設設備	その他
生徒	①②	③④	⑤⑥⑦⑧	⑨⑩	⑪⑫⑬⑭	⑮	⑯	⑰～⑳
保護者	①②	③④	⑤⑥⑦⑧	⑨⑩	⑪⑫⑬⑭	⑮	⑯	⑰～⑳
教職員	①②	③④	⑤⑥⑦⑧	⑨⑩	⑪⑫⑬⑭	⑮	⑯	⑰～⑳

IV アンケート結果

1 生徒アンケート

(1) アンケート結果

昨年度と同様、4件法及び、「わからない」の項目で回答を行った。オンラインでの回答のため回答率は低下した。オンライン回答では、紙回収と比べて、提出の有無が確認できないという短所があるが、回収したものを入力する作業がなくなるため、今後の回収率を高めるための方策を検討していく必要がある。

① 肯定の割合が高い項目

順位	質問項目	今年度	昨年度
1位	⑥私は、日常生活のマナーや社会のルールを守り、あいさつもきちんとできている。	90%	86.7%
2位	⑬本校の公孫樹祭に満足している。	90%	85.4%
3位	⑫本校の体育祭に満足している。	82%	81.0%
4位	⑮本校の健康安全教育（保健安全に関する指導や生活講話等）は適切である	78%	76.4%
5位	②本校に入学してよかったと思う。	85%	75.6%

② 否定の割合が高い項目（否定的意見の割合）

順位	質問項目	今年度	昨年度
1位	⑤本校の生活指導（服装・頭髪・遅刻指導等を含む）に納得できる。	48%	48.4%
2位	③本校の授業は、よく工夫された分かりやすいものが多いと思う。	34%	36.5%
3位	⑯本校は校内の清掃・ゴミの分別等の環境整備ができています。	27%	29.8%

4位	④本校の授業によって進路希望をかなえる確かな学力が付いていくと思う。	23%	29.1%
5位	⑩本校の健脚大会に満足している。	22%	28.9%

2 保護者アンケート

(1) 肯定率の高い項目、低い項目の比較

① 肯定の割合が高い項目

順位	質問項目	今年度	昨年度
1位	⑩本校の健脚大会に満足している。	89%	89.6%
2位	②本校に入学させてよかったと思う。	86%	89.2%
3位	⑬本校の公孫樹祭に満足している。	95%	88.9%
4位	⑥子どもは、日常生活のマナーや社会のルールを守り、あいさつもきちんとできている。	86%	86.5%
5位	⑫本校の体育祭に満足している。	91%	83.5%

② 否定の割合が高い項目 (否定的意見の割合)

順位	質問項目	今年度	昨年度
1位	④本校の授業によって進路希望をかなえる確かな学力が付いていくと思う。	22%	24.2%
2位	⑱本校のホームページは充実している。	23%	19.6%
3位	⑤本校の生活指導 (服装・頭髪・遅刻指導等を含む) に共感できる。	22%	19.6%
4位	⑧本校の保護者会や相談体制 (面談等を含む) に満足している。	17%	19.5%
5位	⑩本校の進学を目指す取り組み (補習・補講・自習室など) は適切である。	21%	18.3%

3 教職員アンケート

(1) 肯定率の高い項目、低い項目の比較

① 肯定の割合が高い項目

順位	質問項目	今年度	昨年度
1位	⑩本校の健脚大会は適切に行われている。	94%	100%
1位	⑲本校は、親切でいねいな電話や窓口での対応をしている。	94%	100%
3位	③より良い授業を行うための工夫をしている。	94%	97.9%
3位	⑦本校は、体罰や暴言をなくすために、積極的に取り組んでいる。	89%	97.9%
3位	⑨本校の進路指導 (進路行事や情報提供、進路相談など) は適切に行われている。	94%	97.9%

② 否定の割合が高い項目 (肯定的意見の割合)

順位	質問項目	今年度	昨年度
1位	⑳本校はライフ・ワーク・バランスのとれた職場環境の実現を図っている。	42%	29.8%
2位	⑤本校の生活指導 (服装・頭髪・遅刻指導等を含む) は適切に行われている。	22%	23.4%
3位	⑭生徒は本校の部活動に満足している。	11%	19.1%
4位	⑥生徒は日常生活のマナーや社会のルールを守り、挨拶もきちんとできている。	17%	17.0%
5位	⑯本校は校内の清掃・ゴミの分別等の環境整備ができています。	6%	12.8%

4 地域アンケート

(1) 肯定率の高い項目、低い項目の比較

① 肯定の割合が高い項目

順位	質問項目	今年度	昨年度
1位	②本校が小平市の「避難場所」として指定されている事を知っていますか。	90%	100%
2位	⑪本校の校地の整備は行き届いていると思いますか。	80%	84.6%
2位	⑨本校の生徒はいきいきと学校生活 (学校行事・部活動・登下校の様子) を送っていると思いますか。	90%	84.6%
2位	⑧本校の部活動は盛んだと思いますか。	90%	84.6%

② 否定の割合が高い項目 (肯定的意見 (いいえ) の割合)

順位	質問項目	今年度	昨年度
1位	④本校のホームページをご覧になったことはありますか。	70%	76.9%
2位	①本校が地域の方々に授業を公開していることを知っていますか。	60%	61.5%

3位	③本校の文化祭を見学したり、施設を利用したりしたことがありますか。	30%	53.8%
----	-----------------------------------	-----	-------

5 新設問「今後も土曜授業を続けたほうがよい」

	肯定的意見	否定的意見
生徒	22%	68%
保護者	64%	28%
教員	53%	47%

6 考察

(1) 調査の信頼性について

生徒、保護者、教職員、さらには地域住民についても紙媒体でのアンケートから Microsoft Forms を利用したものに切り替えた。その結果、回答率は低下した。教室で用紙を配布して一斉に回答させたほうが回答率は高まるが、DX化の流れもあり、今後も Web での回答を継続したい。教室で時間を定めて一斉に入力させる等の方法も考えられる。

(2) 今年度の考察方法について

今年度は、昨年度とアンケートの内容を継続させている。回答の状況からも昨年度との比較を行うことが可能であると判断した。そのため、生徒、保護者、教職員、地域の各アンケート結果を昨年の結果と比較し、変化があるところに着目し、考察することで現状の課題を把握し今後の方策等を考察することとした。

今回は新たに土曜授業についての意見を求めた。

(3) 生徒アンケートの結果から

まず、本校に入学して良かったという「学校満足度」については昨年度から大きく向上し、約 85% の生徒が本校に入学したことを肯定的にとらえている。学校として最も基本的な質問項目であり、肯定的な結果を得られたことは良かった。

次いで肯定的な回答の割合が多い項目に着目すると、公孫樹祭、体育祭の行事について「満足している」という回答が多くなっている。今年度の両行事は生徒の実行委員会を中心に企画運営を行った。生徒の満足度は高いと思われる。

今年、昨年とともに肯定的な回答が高かったのは「マナーについて正しくできている」という項目である。例年この項目は保護者の肯定的な回答が多く今年度も同様である。それに対して教職員の回答は肯定的な回答が生徒、保護者と比べて若干低い。生徒の多くがマナーやルールに対して意識が高いと考えられる。また、地域のアンケート結果においても、生徒の行動に対してのお褒めの言葉をいただくなど、学校外での行動において、よい行動ができる生徒が増えていることが想像できる。

一方、交通マナーについて、心配する立場からの意見は数件ある。

(4) 保護者アンケートの結果から

肯定的な回答の割合が高い項目に着目すると、行事についてはいずれも肯定的である。本校の伝統行事である「健脚大会」については、今年度も昨年同様に肯定的な割合が高くなっている。この「健脚大会」は生徒にとっては過酷な部分もあるのか、生徒アンケートでは否定的な回答がやや多い項目に入っている。生徒が大人になって振り返った時に良い行事だったと思えてくるのかもしれないと感じている。体育祭についての肯定的な回答は 90% であった。グラウンドに保護者席のスペースがなく、600 人の来場者を収容しきれず、十分に観覧いただくことができなかった。それにも関わらず、喜んでいただけた。次年度は保護者観覧については何らかの調整が必要である。

また、2年続けて 90% 近い保護者が「本校に入学させて良かった」と回答している。多くの保護者が良かったと思っていただけていることは励みになる。

否定的な回答について着目すると、「生活指導に共感できる」について否定的な回答が 2年続けて、多いとは言えないものの 20% 程度は存在している。これは、生徒からの情報を基にした感想と思われる。生徒が指導に対する不満を家庭で口にしていることが推察される。

(5) 教職員アンケートの結果から

学校に「働き方改革」という言葉が入ってきて久しいが、教職員が感じている本校の課題の一番は「ライフ・ワーク・バランス」の実現である。昨年度の 30% から、今年度は 42% の教職員が「ライフ・ワーク・バランス」が実現できていないと回答している。「ワーク」偏重型の教職員

が少なくない現状はある。また、本校の教職員集団の特徴として平均年齢が高い事、子育て世代の教員が多い事があげられる。若さと体力がある層が少ないうえに、部活動が26あり、無理がないとはいえない。部活動数の精選など、すぐに実現できないこともあり、課題である。

(6) 地域アンケートの結果から

今年度は、紙媒体とともにMicrosoft Formを活用して回答の拡大を図った。オンラインでの回答が紙媒体の回答を上回った。来年度についてはQRコードの配布方法などを工夫して多くの方からの意見をいただける方法を考えていきたい。

本校の生徒や行事、部活動等についてはおおむね好感を持っていただけていると判断している。その中でも、近隣の大規模マンションとの間にある道路の清掃活動に本校野球部が参加しているなど、信頼関係を醸成することができている。

一方、本校の交通ルールに対する苦言は毎回いただいている。特に自転車については毎年、苦情をいただいている。こちらについても継続的な指導をおこなっていく必要がある。また、ヘルメット着用についても継続して指導をおこなっていく予定である。

否定的な意見に目を向けると、やはり本校はPR活動が課題である。近隣住民がわざわざ学校のホームページを閲覧するとは考えられず、校門付近での掲示など、簡単な方法でPRすることも必要である。

(7) 土曜授業の継続について

本設問は、教員側から検討要請があったため今回限定で実施したアンケート項目である。週休日に部活動がある生徒にとっては、週7日間活動することになる点、週休日に子どもを自宅で留守番させて出勤する教員、必ずしも平日に振替で休めるとは限らない点などが問題となっている。

その一方、進学校としては土曜授業をなくして、週当たりの授業時数を減らすことに対する懸念も存在する。その対策として7時間目を設定することにも抵抗感がある教員が存在する。

アンケート結果から結論を導き出すことは難しく、令和8年度からの土曜授業廃止は見送ることとした。検討継続とした。

(8) まとめ

今年度のアンケートを通じて本校の課題が見えてきた。課題解決に向けてすでに取り組んでいるもの、これから取り組むもの様々であるが、まずは校内でできることから始めることが肝要である。

V 学校運営連絡協議会の成果と課題

1 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- (1) 学校評価アンケートを活用し、その分析結果から本校の課題とその改善の方向性を学校経営計画に生かすことができた。
- (2) 学校評価アンケートで得られた学校への意見・要望に対して、企画調整会議等において学校としての改善策を明確にすることができた。

2 学校運営連絡協議会を実施して明らかになった課題

- (1) 学習規律、学習意欲、学習習慣の確立を図るための指導及び学習環境を整えるための支援の充実により、確かな学力の定着とさらなる向上を更に推し進める。
- (2) 3年間を見通した進路指導計画に基づくキャリア教育を組織的に進めるとともに、最新かつ正確な進路情報の提供と発信に努め、生徒の希望進路の実現を更に推し進める。

VI 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

1 生活指導

- (1) 引き続きいじめ防止基本方針に則り、いじめのない校風を維持するため、いじめは絶対許さないという毅然とした態度で、生徒に意識付けを行った。
- (2) 生徒が納得できる指導を全教員が一致して行えるよう、指導基準や指導方法について年度当初に生活指導部中心に再確認を行うとともに、体罰の根絶への意識を徹底した。

2 進路指導

- (1) 生徒一人一人が将来の職業や専門を踏まえた進路希望を実現するため、進路指導部が主導して、3年間を見通した進路計画を立案し、LHRや総合的な学習の時間等を活用した体系的なキャリア教育に取り組み、将来の職業選択を見据えた進路選択ができるようにした。

(2) 定期考査や実力テスト、模擬試験等のデータ分析を活用して、生徒の進路実現に向けた学力分析や研修会を実施し、学力向上と進路選択のために役立たせるようにした。

3 学習指導

(1) 実力テスト等に基づき、その結果分析を活用して、校内研修により問題点を共有化し、授業改善を行った。

(2) 課題・宿題・小テスト等を教科と学年が連携して計画的に課すとともに、予習・復習を前提とした授業を行うことで、生徒に学習習慣を身に付けさせるように努めた。

4 特別活動

(1) 生徒会組織を機能させることで、生徒が自ら考え、主体的に判断・行動できる場面を意図的に設定しながら、生徒に自信と責任感をもたせ、生徒の学校行事への満足度を高めるようにした。

(2) 引き続き、補習等と部活動が重なった場合の補習優先の原則の徹底や、活動時間の厳守等時間規律の徹底を図ることで、限られた時間内での計画的かつ効率的な活動を促した。

5 施設設備

経営企画室職員と教育職員との連携を強化し、中長期的見通し立った施設・備品・設備の更新を行うとともに自律経営予算の計画的な事務執行を進めるように努めた。

VII 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

1 協議委員の人数 6人

2 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
3	3					

3 委員からの意見

① 保護者が以前とは変わってきた。学校の対応に敬意を表する。

② 地域ではたいへん評判の良い学校である。

③ 都立の学力検査までに、中学生の6割が合格をもらっており、都立の一般入試の重要度が低くなっている。

④ 近隣の小学生に対して親切である。

VIII 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績

{実績} 職員会議 0回 延べ 0人 企画調整会議 0回 延べ 0人

IX その他

特になし